



2022-2023 年度 国際ロータリー第 2730 地区 宮崎県中部グループ

宮崎アカデミーロータリークラブ 会報

第 109 回例会 2023 年 4 月 11 日

●例会場 宮崎大学地域デザイン棟

会長 薬王寺文宏 副会長 成合 修 幹事 安田文彦

■会長の時間 薬王寺文宏 会長



みなさん、こんにちは。

本日は息子の中学校の入学式があつて、朝からそれに出席して“新入生 保護者代表挨拶”をしてきました。そんなのってありましたっけ？私は私立中、高、大に通っていましたので、そんなのなかったと思うんですが…。覚えてないだけできつとあったんですよ？

ということで、まずは息子の入学式ということでハッピーを用意させていただきます。

続きまして、3月31日に公示されました宮崎県議会議員選挙が9日日曜日に投開票が行われ、私の推しメンは無事に当選させていただきました。選挙期間中は会員さんの会社に訪問させていただいたりもしまして、大変お騒がせしました。またご支援いただきまして誠にありがとうございました。

それにしても、なぜかそ忙しい年度末に日程を重ねるのか…

先週まで忙殺されてました。。。

幸い候補者も当選しましたので、こちらもハッピーを用意させていただきました。

さて、先週はそんな状況でしたが、土曜日は鹿児島西ロータリークラブの創立 60 周年の記念式典・祝賀会に出席してきました。基調講演が池ノ上ガバナーエレクトでしたし、私のいところが鹿児島西 RC の直前会長で 60 周年行事の副実行委員長でチャーターナイトにも出席してくれていたもので、今回は是非にでも行きたくてですね。で、本日の会長挨拶で池ノ上ガバナーエレクトのお話をご紹介させてもらおうと一生懸命話を聞いていたんですが、口止めされたので、ここはスルーいたします。翌9日日曜日は高鍋で IM が行われ、本日ご入会いただきます富山さんが基調講演の講師をされましたので、こちらに出席させてもらいました。

ということで、本日はこの後予定が目白押しですので、ちょっと短いですが会長の挨拶ということでさせていただきます。

■幹事報告 安田文彦 幹事



みなさん、こんにちは。

本日の幹事報告は 7 点ございます。

- 1 第 8 期 RLI-2730 パートⅢセミナーのご案内が届いております。
- 2 鹿児島ロータリークラブ創立 70 周年記念式典のお礼が届いております。
- 3 トルコ・シリア大地震義援金のお礼が届いております。
- 4 令和 5 年 3 月末日をもちまして、平野かよ子会員、永山英也会員が退会されました。
- 5 2023 年 3 月 14 日の寄付についてご報告いたします。ロータリー財団が 1,520 円米山奨学金が 3,164 円でした。引き続きよろしくお願いいたします。
- 6 小林ロータリークラブの例会場変更のお知らせが届いております。
- 7 2023 年 4 月のロータリーレートは、1 ドル=133 円です。日本事務局に着金した月の RI レートが適用されます。月末にお振込みされる方はご注意ください。いただきますようお願いいたします。

■各会員からの報告

○ロータリー財団米山委員会 金岡保之 副委員長



昨年度の地区補助金事業に続いて、本年度はグローバル補助金にチャレンジします。申請前ですが、皆様に情報共有させていただきます。

クラブとしての申請の決定は次回の理事会で行う予定です。現在は地区からの連絡を待っています。グローバル補助金 (GG) の特徴は、多額の予算、相手国のニーズ、相手国のクラブ (ジョソール・ウエ

ストRC) とのコミュニケーション、複雑な申請のプロセスなどがあります。
 今後は、地区の了解の上申請する予定です。進捗状況を逐次ご報告する予定です。



現在、宮崎アカデミー・ロータリー・クラブ (MARC) から地区ロータリー・クラブのグローバル・グラント (GG) へ提案を検討している事業の説明を行った。事業として「バングラデシュ国ジョソールのヒ素汚染対策困難地域における持続可能な飲料水対策」を計画している (英語表記は、Capacity Development - Installation - Rehabilitation for Sustainable Rural Safe Water Supply in High Arsenic Contaminated Area of Jashore, Bangladesh)。

まず、なぜ宮崎大学がヒ素汚染対策を実施しているのかという説明。大学としてバングラデシュやインド、ミャンマーなどアジア圏でのヒ素汚染対策の経験がある事を説明した。

本事業は、MARC とバングラデシュのロータリー・クラブ・オブ・ジョソール・ウエスト (RCJW) が共同で実施する事業で、現地の NGO が実務を担当する。

活動内容としては、3本柱の活動を計画しており、1. 住民啓発活動、2. 安全な飲水の提供、3. 維持管理体制構築を行う。

事業目標としては、高濃度ヒ素汚染地域で暮らしている人々へ持続可能で安全な飲料水を共有する。目標給水人口は、40 基の水供給施設×40 家族×5 人=8,000 人である。

Rotary Miyazaki Academy Rotary Club

バングラデシュ国ジョソールの
 ヒ素汚染対策困難地域における
 持続可能な飲料水対策

Capacity Development - Installation - Rehabilitation for
 Sustainable Rural Safe Water Supply
 in High Arsenic Contaminated Area of Jashore, Bangladesh

矢野 鏡典 助教
 国際連携センター
 宮崎大学

UNIVERSITY OF MIYAZAKI

UNIVERSITY OF MIYAZAKI 宮崎とバングラデシュの関わり①

宮崎で起こったヒ素問題

宮崎県土呂久 (とろく)
 ヒ素汚染の歴史「第4の公害病」
 環境省が第4の公害病に指定 (1973年)

古祖母山脈の谷間の集落
 ・ 1920年から1962年まで徳兵衛ヒ素を製造していた
 ・ 土呂久川に沿って鉱が産出
 ・ 濃硫酸が進行
 ・ 1970年の50世帯250人から
 ・ 2010年の30世帯110人に減少
 ・ 江戸時代に狼山として栄えた
 昔話「夢遊山脈」
 現在は、天然の庭園のように美しい山のむら

「土呂久鉱山のミュージアム」HPより
 University of Miyazaki

UNIVERSITY OF MIYAZAKI 宮崎とバングラデシュの関わり②

アジアヒ素ネットワークHPより
 University of Miyazaki

UNIVERSITY OF MIYAZAKI 宮崎とバングラデシュの関わり③

アジアにおける砒素汚染対策

1997年
 横田教授の講義を聞いた工学部、土木環境工学科の有志による現地調査開始!

自分たちの専門を活かした12人の学生で
 調査計画を立てる。
 大学OBを訪ね、調査費のカンパを募る!

Samta村の全戸ヒ素汚染マップ作成

横田研究室で研究開始!

1998年
 ①ヒ素汚染のメカニズムを解明するための研究を開始!
 ②住民に砒素のない安全な飲料水を供給するための研究を開始!

Distribution of As-contamination in Samta Village
 University of Miyazaki

UNIVERSITY OF MIYAZAKI 自己紹介

- ・ 大学時代にバングラデシュに出会う!
- ・ 大学卒業後、NGOに入りバングラデシュ現地職員になり約3年滞在
- ・ 2008年に宮崎大学のインドJICA事業へ参加
- ・ 2008年~2012年までインド事業
- ・ ミャンマーでのJICA事業立ち上げ
- ・ 2015年8月からミャンマーJICA事業開始
- ・ 2021年から宮崎-バングラデシュICT人材育成事業に参加

専門は環境工学だが、
 バングラデシュとの関わりは長い!

University of Miyazaki

Rotary  Miyazaki Academy Rotary Club

ヒ素による人体への影響

- 飲み込んだ際の急性症状は、消化管の刺激によって、吐き気、嘔吐、下痢、激しい腹痛などがみられる。急性の中毒症状としては、めまい、頭痛、四肢の脱力、全身疼痛、麻痺、呼吸困難、再化や色素沈着などの皮膚への影響、下痢を伴う腎臓障害、腎障害、末梢神経障害が報告されている。
砒素化合物の致死量は体重1kg当たり1.5~500mgと考えられている。体重60kgだと90mg~30gが致死量。
- 慢性症状は、劇毒性の皮膚病や過度の色素沈着、骨髄障害、末梢神経症、貧血、腎不全など。慢性の中毒症状としては、皮膚の角質化や色素沈着、末梢性神経症、高熱がみられ、末梢神経障害不全などが報告されており、皮膚病としてはポーエン病が有名である。
砒素の許容最大耐容1日摂取量は体重1kg当たり0.002mgと考えられている。
- ヒ素およびヒ素化合物はWHO（世界保健機関）の下部機関IARC（国際がん研究機関）により発がん性があると分類されている。
- 体内に取り込まれたヒ素は、24時間以内に血液を介して肝臓、腎臓、膵、脾臓や小腸粘膜に多く分布する。皮膚がむけたり、毛髪が抜ける時にもヒ素が一緒に排泄されると考えられる。骨、肝臓、皮膚や毛髪には長期残留するため、慢性中毒の指標として使われている。

UNIVERSITY OF MIYAZAKI

Rotary  Miyazaki Academy Rotary Club



Miyazaki Academy Rotary Club
Club ID: 89263
RID-2730, Japan



Rotary Club of Jashob West
Club ID: 90803
RID-3281, Bangladesh

協力関係

技術サポート



Asia Arsenic Network Bangladesh
（宮崎のNGOが元となり設立）

管理・監督

- 1.住民啓発活動
- 2.安全な飲水の提供
- 3.維持管理体制構築

3本柱の活動を実施！

**高濃度ヒ素汚染地域で暮らしている人々へ
持続可能で安全な飲料水を共有する。
（目標給水人口：40基の施設×40家族×5人=8,000人）**

UNIVERSITY OF MIYAZAKI

Rotary  Miyazaki Academy Rotary Club

3本柱の活動！

現地NGOが実施

MAINTENANCE

MANAGEMENT

- 1. 住民（利用者）への啓発**
住民の意識・モチベーションの確認が重要
ヒ素や公衆衛生に関する啓発
Rural areaでのコミュニティー・ベースの水供給では、利用者の当事者意識（オーナーシップ）の醸成が必要
意思決定の中心が利用者となり、場所やオプションの選定
- 2. 代替水源の設置**
Bangladeshのプロトコルを遵守した安全な飲料水供給
現地の資材を使い、現地利用者が維持管理できる機構
設置方法の共有（技術移転）
- 3. 維持管理体制の構築**
メンテナンス体制の構築（技術的サポート）
マネージメント体制の構築（利用料金徴収システム等）

UNIVERSITY OF MIYAZAKI

Rotary  Miyazaki Academy Rotary Club

Thank you
for your attention!



UNIVERSITY OF MIYAZAKI

○奉仕プロジェクト委員会 勢井由美子 委員長



『5月21日集合時間 9:00
集合場所サンビーチーツ橋駐車場
活動開始 9:30~10:30
持参するものは、飲み物。』

今日は、母子の健康月間です。

このプラスチックごみ問題は、多くの問いを持つものでございます。

その中の一つを申し上げますと、先日池ノ上ガバナーエレクトがこのようにおっしゃいました。『環境と生態から見ることも達への影響は想像を絶するものがある』と。

どうぞ皆様揃って環境問題や会員親睦も含めましてご参加くださいますよう宜しくお願い致します。

○クラブ管理委員会 瀧伸一 委員



第109回例会出席について、次の通り報告いたします。

- ・開催日：2023年4月11日火曜日
- ・会員数：40名
- ・ホーム出席：25名
- ・オンライン出席：1名
- ・出席者合計：26名（出席率 65.00%）

○クラブ管理委員会 辻清委員長



○第2回親睦ゴルフコンペについて
2023.4.22（火）9:46 スタート UMK カントリークラブ 現在、9名です。追加参加が可能。

○次回、第110回例会について

2023.4.25（火）12:00~宮崎大学地域デザイン棟

■入会式

○推薦者 伊達紫 会員



富山幸子さまをご紹介します。

富山さまは、1980年に宮崎県庁に入職され、長く技術畑を歩んでこられました。活躍の場は、技術・研究開発からフードビジネス振興、人材育成と多岐にわたっており、現在は、宮崎県男女共同参画センター所長をお勤めになっております。一昨日（2023年4月9日）のIMでの講師としてご登壇され、そのご縁もあり、

高鍋ロータリークラブ・藤本ガバナー補佐もゲストとして駆けつけてくださいました。

富山さまのこれまでのご経験や男女共同参画センター所長として取り組んでおられるジェンダー平等など、宮崎アカデミーロータリークラブ会員が学ぶところも多くあり、同クラブでのますますのご活躍を期待して、会員に推薦させていただきました。

○富山幸子 会員



宮崎県男女共同参画センターの富山でございます。

伊達先生からの熱心なお誘いを受け、入会を決意いたしました。

当ロータリーのメンバーには、県庁でお世話になった方々がいらっしゃいます。

以前から、水光先生はじめ、宮崎大学の先生方にも大変お世話になっており、このような先生方がいらっしゃることも、入会の大きな動機付けになりました。

まだ何をなすべきがよくわかっておりませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

■卓話

○公共イメージ委員会 竹井倫世 委員



(株)コンフォートダイナーの竹井です。本日は日頃から宮崎アカデミーロータリークラブの皆様より、多大なるご支援を頂いている、ニシタチこども食堂の2022年度活動報告をさせていただきます。

2021年12月に始まったニシタチこども食堂は、4月で15回となりました。最初は2名で始まりましたが、今では毎回定員を超える子供達に参加しています。2022年度は子供304名、大人99名、合計403名もの皆様に参加頂きました。

こども食堂では、毎回郷土料理や宮崎名物料理など飲食店ならではのメニューに拘り、そのストーリーも含めて紹介しています。また、企画イベントも同時に行っています。

～行ったイベント～

1. 五味五感を知る味覚の授業
2. 絵本の読み聞かせ
3. 豚肉の生産者、野菜の生産者さんからお話を聞

く

4. ドイツ人の方による猪肉のソーセージ作り
5. 自分でつくるサラダスパゲッティ
6. ボードゲーム大会
7. サイコロチャレンジ

このような活動を通して、“自然に宮崎の食を知ること” “自然に食事のマナーを知ること” “自然とコミュニケーション能力を身に着けること” が出来ればと考えています。

この食堂を始めようと思ったきっかけは、新型コロナウイルスによる経済的影響です。今子供達を取り巻く環境で問題となっているのは、今食べるもの着るものに困る「絶対的貧困」ではなく、臨時の支出（新しい制服購入や修学旅行など）に困る「相対的貧困」です。こども食堂の一つの役割として、そのような環境下を知り、少しでも支援に繋がってほしいという目的があります。

このような機会を頂き、この場で日頃のご支援に心より感謝申し上げます。

引き続きニシタチこども食堂を何卒よろしくお願い申し上げます。

会報発行：公共イメージ委員会
委員長 大地寛行
宮崎アカデミーロータリークラブ
事務局
〒880-0006 宮崎市広島1丁目3-3 秀豊ビル4F
TEL 0985-22-6767 FAX 0985-22-9170